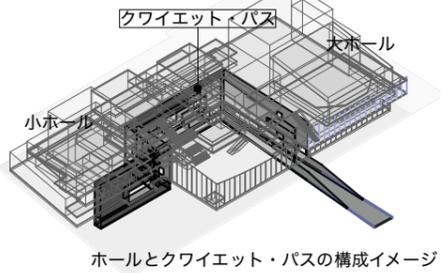


本施設設計における業務実施方針

・設計の理念と考え

震災から13年、数多くの震災記念施設が整備されてきたなかで、私たちは、他にない本施設の特徴である「ホール施設と複合された震災施設」の在り方を考えました。それが、施設をひとつながりで縦横に貫通する「クワイエット・パス」を中心とした建築空間です。震災へわれわれがどう向き合うべきか、死者を悼み地域の悲しみをどう継承するべきか、という問題に向かい合い、本プロジェクトでしか在り得ないクワイエット・パスの3つの建築的特徴にまとめました。



建物を貫通する表裏一体の空間であること：クワイエット・パスは、国際センター駅を降りてすぐの屋外広場から、また共有部分を含む劇場空間側から、訪れた人々の視線に常にさらされるオブジェクトとしてつくられています。内に震災の記憶を胚胎するクワイエット・パスの壁面に常に意識が向けられることで、日々催しが行われる施設の日常に、被災者への悼み・悲しみが入り込み、イベントを楽しむんだあと帰路につくわれわれの心に震災の記憶を刻みます。

長く折れ曲がった道であること：クワイエット・パスは、全体を一望できるかたちにはなっていません。記念碑でも礼拝堂でもなく、見通せない曲がりくねった道を歩く小径です。深い地下空間へ降り、震災の記憶にふれながら、曲がり角を曲がり、最後に震源を指し示す大きな開口部と対峙します。巡礼や托鉢の僧侶のように、沈黙考し、深い内省を促す、歩くことそのものが祈りとなるような空間です。
空間や光が相互貫入していること：クワイエット・パスは自立した閉鎖的な空間ではなく、いくつもの孔があき、ホール側の空間と貫入しています。静かなパスで震災に思いを馳せ歩きながらふと目を上げると、復興された明るい日常の光とほのかな音楽が降り注ぎます。またイベントで高揚した気持ちでホール側を歩く時、ふっと眼下に静寂に沈んだパスの空間があらわれます。暗と明、過去と未来、絶望と希望が入り混じることで、震災の記憶と復興の現在・未来への想像力を喚起します。
 われわれは、怠惰で、軽薄で、忘却しやすい存在です。震災の記憶も、消費され、すでに風化しつつあります。記憶と継承に必要なのは、ウェブに流通するインスタントな知識をそのまま消費するのではなく、時間を使い、自らの目で見て、感じ、咀嚼し、考えることです。新しい仙台市のホールとクワイエット・パスは、ストリートビューやSNSでは決して感じとることのできない複製不可能な時間と体験を、われわれに与えてくれると考えています。

・設計を進める上で特に留意すること

各方面の関係者との協働を創造的に発展させる設計プロセス

- ・発注者との対話だけでなく、各方面の関係者へのヒアリング、市民説明会、ウェブを活用した情報発信や市民アンケート等を行い、様々な人々の声に耳を傾けながら設計を進めます。
- ・震災後13年経った現在の仙台を学び、東北各地の震災関連施設との連携を図るため、現地事務所の開設を検討します。
- ・3D-CADを用いてビジュアルなイメージを作成し、各方面の関係者の誰もがわかりやすい設計プロセスとします。また、対面会議だけでなくオンライン会議を導入し円滑なコミュニケーションを実現します。
- ・十数件の劇場設計の経験を活かし、本施設の事業計画や運営計画を踏まえて議論を行い、施設計画に確実に反映します。

・コスト削減に関する提案

設計初期から全体を把握しコストの合理化を実現

- ・全体工事費の約過半を占める土工事・躯体工事を徹底的に合理化した上で内外装工事・主要設備を適正に計画します。
- ・実績あるコスト管理主任技術者と緊密に連携しながら、各段階毎に建設コストを検証し関係者間で共有します。きめ細やかなコストコントロールにより確実に業務を遂行します。

シンプルな構造計画によるコストの低減

- ・耐震性に優れ、遮音性の高いRC造を採用し、ホール・ロビー大空間を実現するために屋根はS造を採用します。
- ・基礎は直接基礎とし、一部を柱状地盤改良とすることでコストを削減します。

ライフサイクルコスト(LCC)を抑える施設計画

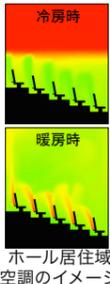
- イニシャルコストの投資方針**
- ・建設後の運営費の最小化を目指します。
 - ・LCC低減に役立つ建築仕上げや機械設備/電気設備に重点的にコストを配分します。
 - ・舞台設備はベストマッチした内容を協議し決定します。

ランニングコストの運営方針

- ・多様なエネルギー源のベストミックスを検討します。
- ・メンテナンスフリー建材を採用しメンテナンス費を低減します
- ・BEMSを導入し、各エリア別で電力・空調エネルギー消費量を季節・時間ごとに把握・分析。建物の利用パターンに応じて最小の熱源で運用し、ランニングコストを抑えます。

自然エネルギーの積極的活用

- ・クワイエット・パス上部に換気窓を設置し風の道を生み出し自然換気による快適な環境をつくります。
- ・屋上緑化により熱負荷を抑制します。屋根散水による蒸散冷却効果も狙います。
- ・太陽光発電システムの設置を検討します。
- ・地下躯体ピットにおける外気予冷/予熱、外気冷房の検討を行います。
- ・ホール客席部は居住域空調を採用しランニングコストを最小化します。



階	延床面積
B1階	6,310㎡
1階	10,670㎡
2階	6,110㎡
3階	4,960㎡
4階	1,290㎡
R階	250㎡
延床面積 合計	29,590㎡
地下駐車場面積	1,640㎡
地下駐車場面積含 延床面積	31,230㎡

・将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

世紀を超える100年建築の実現/メンテナンスが簡易化された上でのロングライフ化を実現します

- 物理的ロングライフ化**
- ・躯体の高耐久高強度を実現すべく、100年コンクリート(JASS5)を採用します。
 - ・更新サイクルを踏まえメンテナンス費、更新回数が抑えられる材料の選択、長寿命機器を採用します。
 - ・屋根防水、屋上アスファルト防水は長期保証製品を採用します

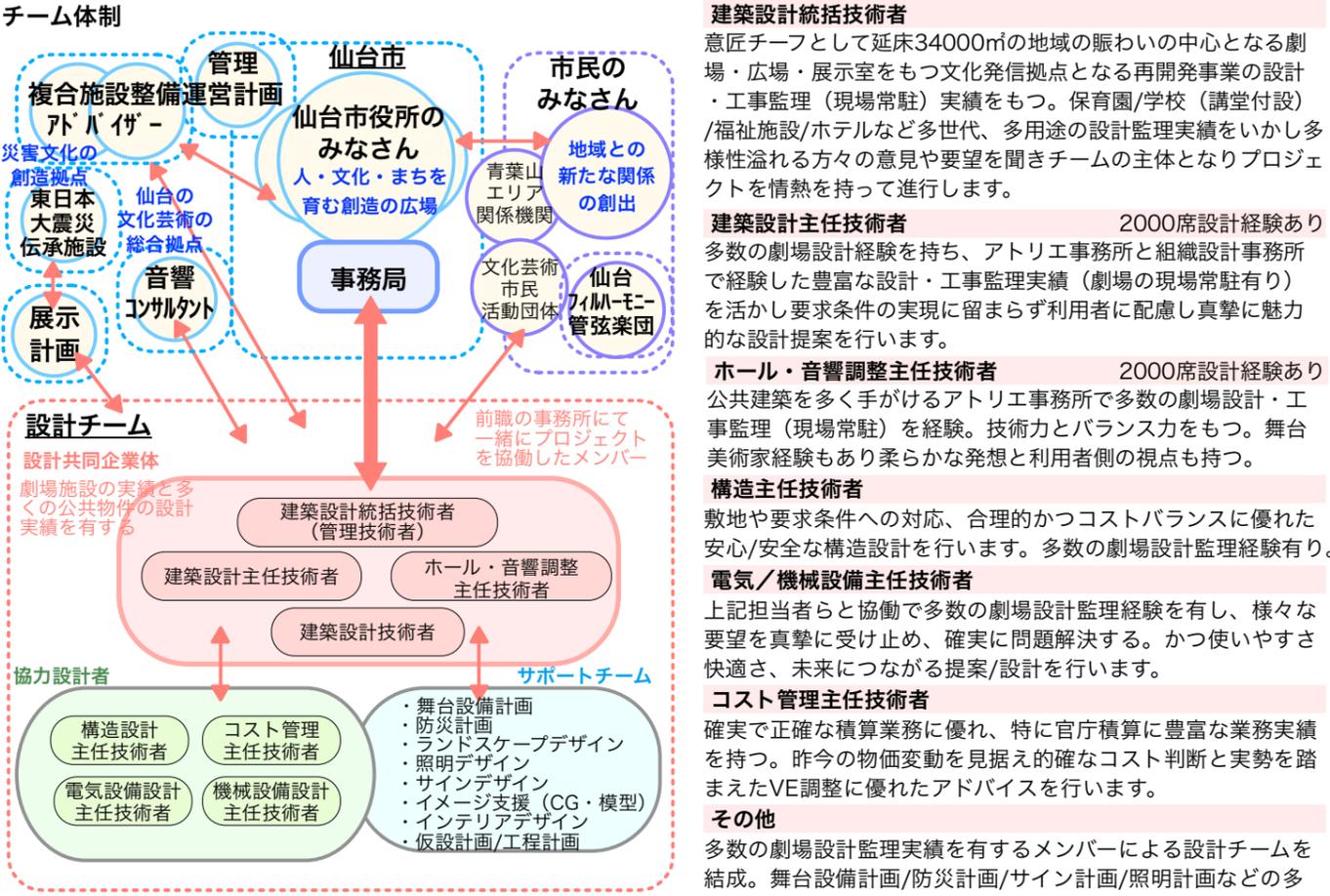
- 機能的ロングライフ化**
- ・多用途に対応でき様々な活動要求に応えられるプランとします。
 - ・舞台設備は更新が容易な仕様とし、必要に応じて装備を充実できる計画とします。
 - ・機械室、設備シャフトに更新対応できるスペースを確保し、効率的な配置でエネルギー運搬/更新コストを抑制します。
 - ・設備機器を更新しやすい搬出入動線を設けます。

経済的ロングライフ化

- ・外壁は高耐候性無機硝子質コーティング。ガラス面は光触媒コーティング。内部は防汚性塗装の採用により、清掃コスト低減を検討します

同規模の複合施設を含む全国10ヶ所以上の劇場設計経験を持った情熱のチーム

本設計の主要メンバー（統括、建築主任、ホール主任、設備主任、コスト管理主任）は、全国有数の大規模劇場複合施設（延床面積約34,000㎡）をプロポーザルから設計・工事監理まで一貫して主導し、完成させた実績を持っています。メンバー相互の信頼は厚く、また大規模施設の設計に必須な、多数の関係者の時に矛盾する多様な意見をまとめ上げる力と経験を全員が備えた設計チームです。



様々な可能性を模索しつつプロジェクトを確実に前進させる細やかな設計工程

- ・設計工程を複数段階に分け、段階ごとの目標達成を確認し、関係者の意思決定・情報共有を確実にを行います。
- ・初期段階ではプロポーザル案に拘らず多様な視点によるあらゆる可能性を広く追求し、方向性を徐々に絞り込みます。
- ・早期に達成すべき目標と、継続的に時間をかけて協議すべき課題を分け、それぞれを適切な戦略によって同時並行的に検討することで、設計業務期間内に施設のポテンシャルを最大化し、理想の実現に向けての着実に前進していきます。

